

MAGATSUBARAI
ORIGINAL SHORT STORY

ふたりあそびで
イチャコラと

著・高濱亮



SAMPLE

ソフマップ店舗特典

マガツバライ X-rated / オリジナルショートストーリー

ふたりあそびでイチャコラと

SAMPLE

——男と女の関係はそれこそ千差万別だ。

特に距離感の変化については、人によりけりと言えるだろう。

恋人になった途端、いきなりスキミングが増加するパターンもあれば、逆に今までと変わらない雰囲気を保つ例もある。

そして、石動隼人と烏丸しおんの場合は明らかに後者だった。

同じ屋根の下で暮らしている上、すでに二人は気心の知れた家族同然の存在だ。なので互いに緊張する理由がなく、それは困難を乗り越え大団円ハッピーエンドへたどり着いた現在いまであつても変わらない。

相手の部屋に入ろうとも、さして異性を意識せずそれぞれ普通にくつろぎ始める。

それが俺たちにとって当たり前前の付き合い方であつて——

「ぬああ……なんかダルくなつてきたの。やめじゃ、やめ」

「ギブアップ早えよ」

おかげで今日もまた、自室で二人きりという状況に甘酸っぱさを感じる要素はゼロだった。

ノートPCを閉じ、俺の布団にごろごろ転がり始めるしおん。唇を尖らせてスマホをぼちぼちいじる様子に、一時間前のやる気は欠片も見られない。

『ユーチャンバーに、妾はなる！』とかあれほど豪語していたのにさ。

「動画の編集できなかつたらスタートラインにも立てねえぞ？」

「ロジハラやめいッ！ といつか仕方なかるう。翼のおさがりPCではまるでスペックが足りんのじゃから。」

録画データはノイズやコマ落ちだらけじゃし、作業中さえカクつきまくって……んがあああッ、ストレスマツハで話にならんわ！」

「そりゃ機材にお金かけなきゃそうなるだろ。小遣い惜しさの代償つてことで、我慢我慢。型落ちのでも手に入っただけありがたいと思おっぜ」

まあ、しれっと動画編集ツールを使いこなしているっぽいのは素直に感心するし、俺としても新しいことへのチャレンジ精神は応援したいが、それはそれ。

いきなりポンと高価なパソコンを買ってあげるのはこの子の教育に悪いというわけで、うん。

「コツコツ貯めてその内買い揃えりゃいいさ。頑張ろう」

「ええい、無茶言うな隼人。妾がゲハ数台分もの大金を貯金できるはずなかるうがッ。」